

**武蔵野銀行本店ビルに対する
JHEP 認証[第 1 回更新]
審査レポート**

2026 年 9 月

武蔵野銀行本店ビルに対する
JHEP 認証〔第 1 回更新〕審査レポート

評価申請者

名称 株式会社 武蔵野銀行（取締役頭取 長堀 和正）
住所 埼玉県さいたま市大宮区桜木町 1-10-8

申請番号

1-4109201-2101

評価実施者

名称 公益財団法人日本生態系協会（会長 池谷 奉文）
住所 東京都豊島区西池袋 2-30-20 音羽ビル

ハビタット評価認証制度 JHEP

JHEP（ジェイヘップ）は、米国連邦政府が開発した HEP という環境評価手法を、当協会が日本で適用可能な形に改良し、2008 年に創設したもので、事業を実施する前よりも生物の多様性の価値が向上した取り組みを、定量的に評価、認証する日本唯一の認証制度です。

自然の生態系は現代世代及び将来世代のもっとも大切な生存基盤です。その生態系の構成要素である生物の多様性は、私たちにとって遺伝子資源としても、なくてはならない基本財産です。その生物の多様性の価値がこれまで、漠然としたイメージで取り扱われてきました。

JHEP により、「動物のすみやすさ（HSI）」、「植生の地域らしさ（VEI）」という 2 つの指標を用いて数値化し、事業の前後を比較することで、生物の多様性の保全や再生の効果を明確に示すことが可能となりました。本認証は世界レベルの厳しい基準によるもので、消極的な環境への“配慮”では取得困難です。それだけに、認証を取得した取り組みは、社会に大きく貢献すると共に、世界へ発信可能な事業であると言えます。

目次

I. 評価の概要	1
II. 評価区域と基準年.....	3
1. 評価区域	3
2. 基準年	4
III. 事業内容	5
1. 事業の概要	5
2. 緑地割合	11
IV. 評価結果	12
1. 保全再生目標等の設定.....	12
2. 植栽植物等の確認（要件 3 の確認）	19
3. 評価基準値の算出.....	20
4. 事業によるハビタット得点の算出.....	24
5. 更新年の 50 年後におけるハビタット得点（要件 2 の確認）	28
6. 評価値（要件 4 の確認）	29
V. 審査結果	32

I. 評価の概要

申請番号 1-4109201-2101

評価対象事業

名称 武蔵野銀行本店ビル
 所在地 埼玉県さいたま市大宮区桜木町 1-10-8
 面積 3,400.21 m²
 概要 店舗外構植栽の維持管理

事業実施者

名称 株式会社 武蔵野銀行（取締役頭取 長堀 和正）
 住所 埼玉県さいたま市大宮区桜木町 1-10-8
 問合窓口 総務部
 電話番号 048-641-6111

認証タイプ ハビタット評価認証 ver.3.0（JHEP ver.3.0）

基準年 1969 年

申請年 2021 年

更新年 2026 年

緑化条件 総敷地面積の 20%以上が緑地となる.

将来における緑地割合 27.6%

目標植生 シラカシ群集

評価種 シジュウカラ／コムスジ

評価結果

要件 2 ハビタット得点が将来までに 8 点以上とすることが見込まれる.

50 年後のハビタット得点 **23.3 点**（得点範囲：0～100 点）

要件 3 生態系被害防止外来種を使用しない.

使用なし

要件 4 評価対象事業で得られる、更新年から 50 年間ににおける年平均ハビタット得点が、評価基準値以上となる.

年平均ハビタット得点の増減 **+19.7 点**（得点範囲：－100～＋100 点）

認証可否 認証可

保全タイプ ハビタット代償保全および向上

評価ランク AA

総評

今回の更新認証に係る現地調査では、市街地に立地する本店ビルにおいて、都市部の緑を繋ぎ「武蔵野の森」を体現した豊かな緑地空間の再生と維持管理の取り組みが確認されました。関東周辺や荒川流域等の近傍地域から調達された地域性の高い植物材料が適切に用いられており、「大宮駅周辺地域戦略ビジョン」が目指す生物多様性の回復や都市生態系ネットワークの形成に寄与する貴重な拠点として、引き続いて認証基準を満たしていると認められました。

また、設定された将来樹高や管理方針に沿って高木に高さ制限を設けず、一律的な整枝・剪定を避けた適切な育成管理が行われていることが確認されました。今後も自然な樹形を活かして樹高・葉張りを豊かに成長させていくことで、ハビタット適性（HSI）のさらなる向上が期待されます。長期的な視点からは、目標植生であるシラカシ群集の構成に近づくよう適宜見直しを行っていくことを推奨します。

多様な自然環境の再生と気候変動への対策が最大の課題となっている現在、本事業は当該地域の生態系ネットワークの拠点としてさらに重要性が増し、自然と共存する美しいまちづくりの先進事例となっています。世界的に ESG 経営や SDGs、ネイチャーポジティブ実現に向けた取り組みが求められる現代、持続可能な経済・社会の実現に向け、企業の果たすべき役割は、かつてないほど注目されています。今後も生物の多様性を重視した取り組みが継続、発展されていくことが期待されます。

ガイドライン

ハビタット評価認証制度 考え方と基準 ver.3.0

評価認証機関

公益財団法人日本生態系協会

電話番号 03-5951-0244

認証日 2021 年 9 月 28 日

更新日 2026 年 9 月 28 日

有効期限 2031 年 9 月 27 日

認証番号 1-4109201-2101/01

Ⅱ. 評価区域と基準年

1. 評価区域

埼玉県さいたま市大宮区桜木町 1-10-8 に位置し、評価区域の面積は 3,400.21 m²である（下図の赤色部）。

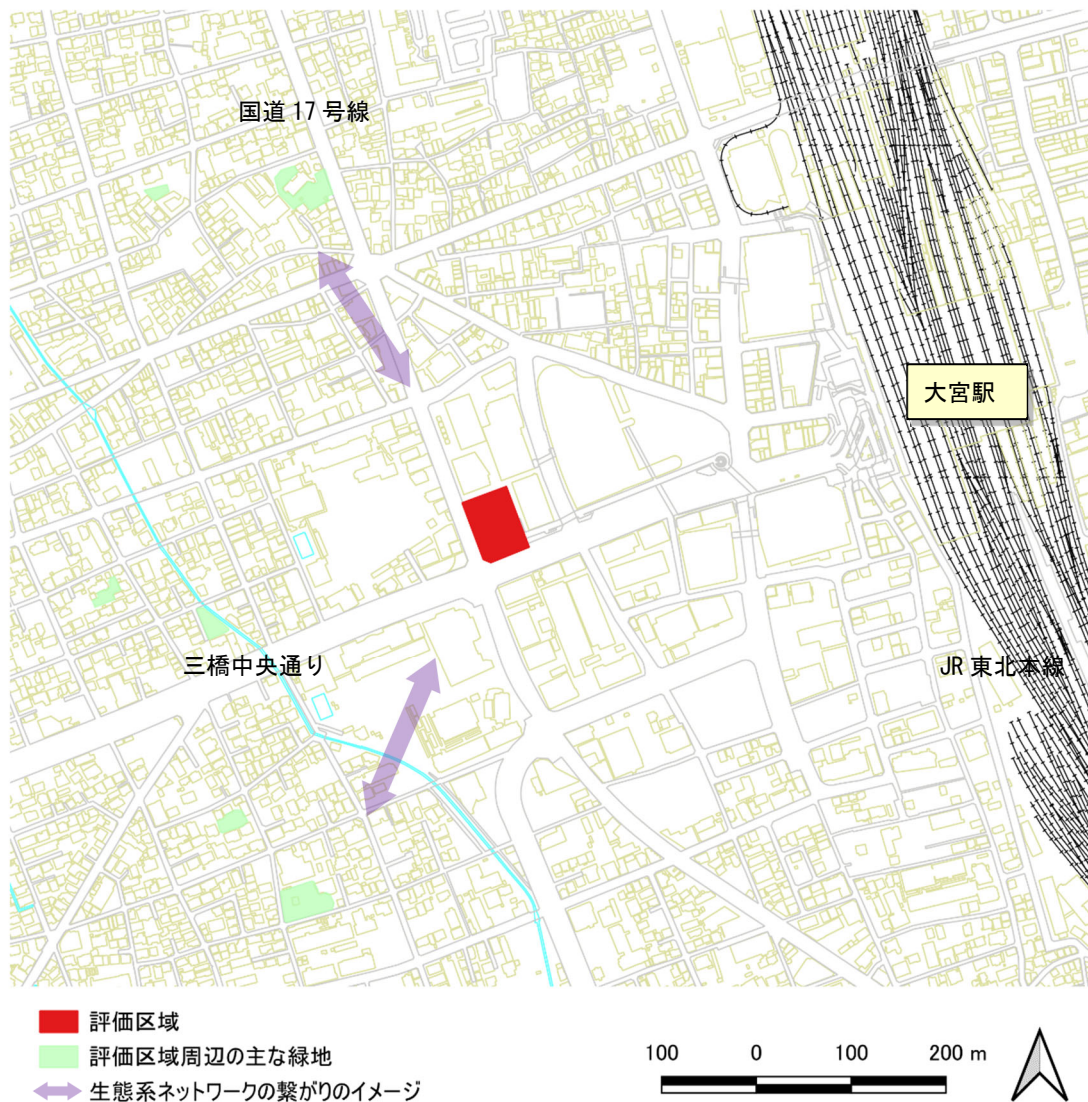


図. 評価区域

（国土地理院発行の基盤地図情報 25000 および国土数値情報をもとに作成）

2.基準年

土地の取得年は 1969 年である。一方、申請年（2021 年）の 30 年前は 1991 年となる。土地取得から初回申請までの期間が 30 年以上の場合は、土地取得年と 1961 年*のうち、年代の新しい方から初回申請年の 30 年前までの間で、評価基準値が最小となる年次を基準として設定することができる。

1961 年～1991 年の間の複数年代の空中写真を確認したところ、1960 年代の写真からは、住宅あるいは工場と見られる複数の建物が判読された。1970 年代以降は、武蔵野銀行の旧本店として利用され、外構の一部に植栽が確認されるのみであり、以降に大きな変化は見られなかった。

従って、評価基準値が最小となる 1969 年を基準年とした。

* 国土地理院が全国を対象に空中写真の撮影を開始した年次。

Ⅲ. 事業内容

1. 事業の概要

対象地は、JR 大宮駅から西約 400m に位置する。1969 年に株式会社武蔵野銀行が土地を取得し、本店として利用されてきたが、建物の老朽化が進行していたことから、耐震機能に優れた新本店への建て替えが行われた。

「武蔵野の森」をデザインのコンセプトとし、都市における生態系ネットワークに寄与すると共に、四季の移ろいを感じる景観を形成し、クールスポットとなる憩いの緑陰空間を地域に提供することが意図されている。また、多くの植物材料を関東周辺から調達し、一部については、事業地が立地する荒川流域および近傍の地域から調達をした植物が用いられており、植生の地域らしさの向上に寄与している。

また、外構には秩父産の自然石を使用して地産地消により地域との一体感を高めているほか、二重庇による省エネルギーへの寄与や、照明・空調・排水等の適切なコントロール、屋上への太陽光発電パネルの設置など、サステナビリティへの貢献が意図されている。

木々については一律に整枝・剪定を行うのではなく、特に地上部の高木については高さ制限を設けずに、植栽管理にあたっていくものとしている。

名称	武蔵野銀行本店ビル
敷地面積	3,400.21 m ²
延床面積	約 29,940.69 m ²
階数	地上 13 階 地下 2 階
用途	本部機能・本店営業部・研修施設等
着工	2019 年 7 月
竣工	2021 年 9 月
環境対策	建築環境総合性評価システム「CASBEE」A ランク相当



図. 武蔵野銀行本店ビル外観(2026 年 6 月撮影)



図. 多様な樹木や野草が植栽された緑地空間(2026 年 6 月撮影)



図.「武蔵野の森」をコンセプトにした外構植栽(2026 年 6 月撮影)



図. 地元の荒川流域等から調達された地域性の高い在来種(2026 年 6 月撮影)

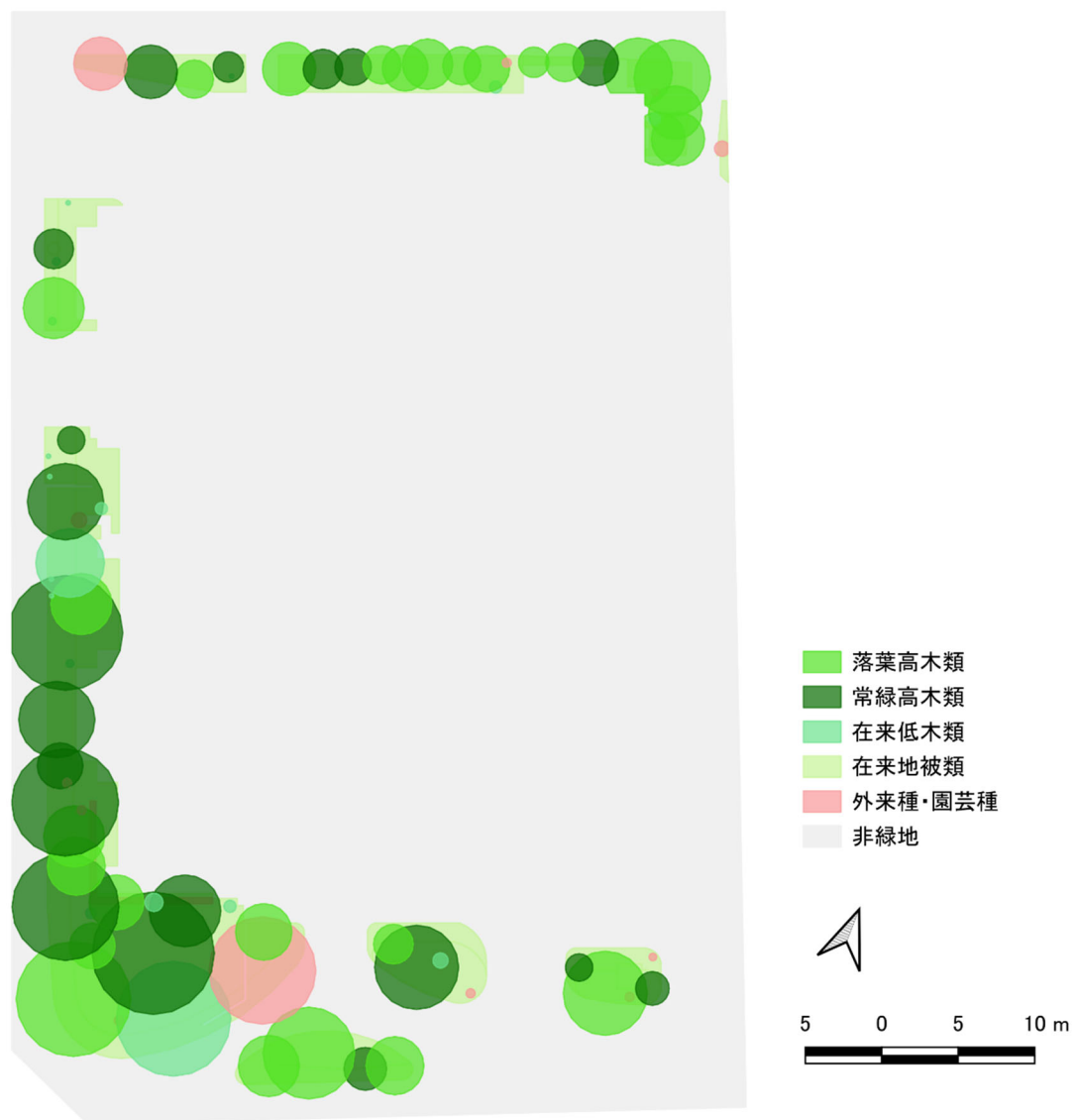


図. 2026 年（更新年）における植生等の分布

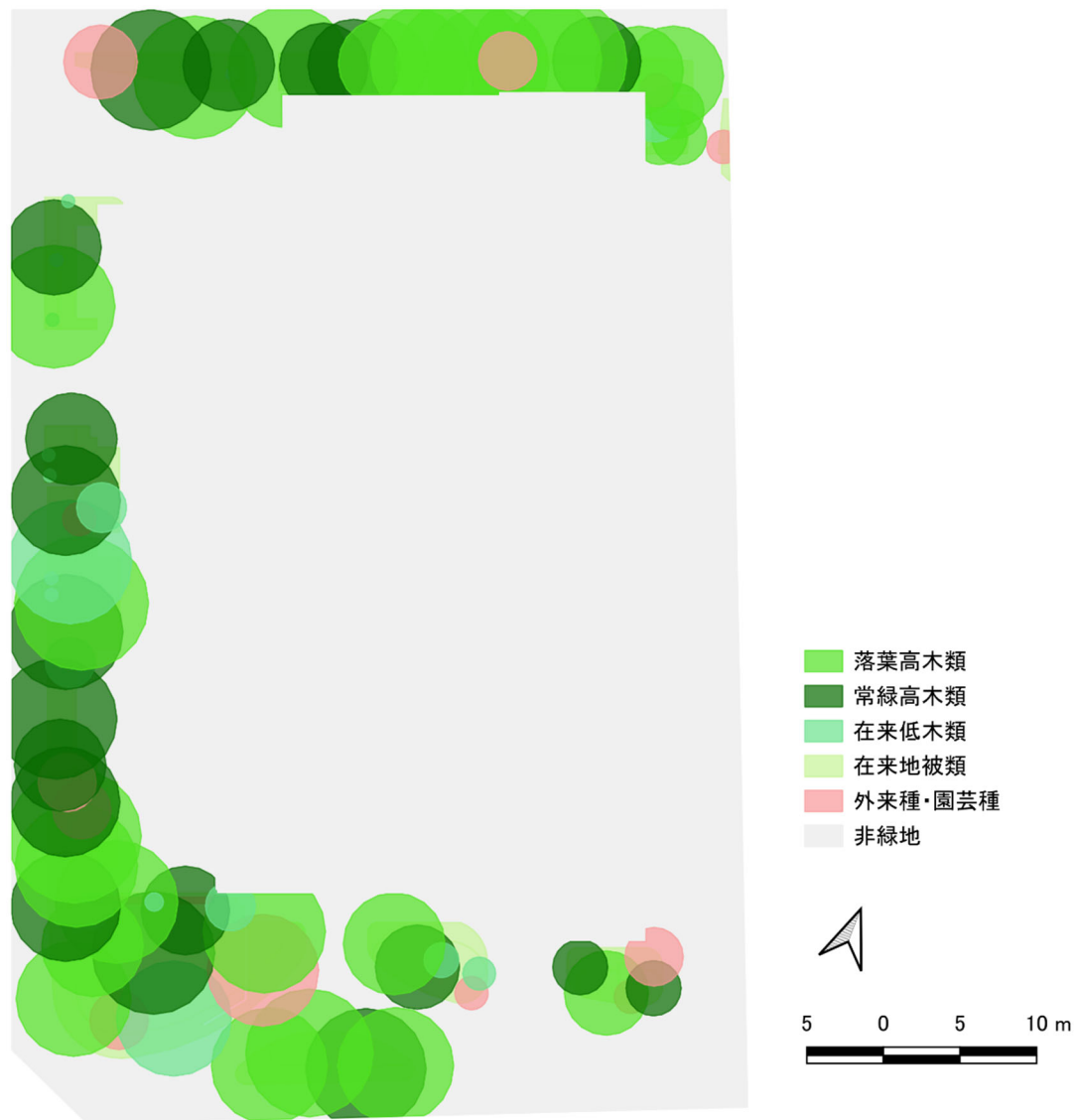


図. 2076 年（更新年の 50 年後）における植生等の分布



図. 管理上予定している将来樹高

2.緑地割合

JHEP の定義に従った当該評価区域の緑地割合は 27.6%であり、JHEP 認証に関する緑化条件は満たされている。

IV. 評価結果

1. 保全再生目標等の設定

1-1. 保全再生目標

植生については、評価対象地において成立しうる自然植生の系列に基づいた自然植生の保全・再生を目標とする。動物に関しては、評価区域の立地条件および設定された目標植生に生息し、希少性や固有性、栄養段階などの高い種や人為影響を受けやすい種などを中心として保全を図ることを目標とする。

1-2. 基準年の状況

基準年（1969 年）から過去 30 年間（1939～1969 年）のハビタットの状況を、複数年代の空中写真を用いて把握した。

その結果、1960 年代においては、住宅あるいは工場と見られる複数の建物が確認された。1970 年代以降は、武蔵野銀行の旧本店として利用され、外構の一部に植栽が確認されるのみであり、以降に大きな変化は見られなかった。

1-3.環境タイプの分布状況

JHEP では「環境タイプ」という概念を設けている。環境タイプは、ランクの高い順に「1. 湿性環境、樹林」－「2. 低木・草地・竹林」－「3. 人工地」と定義している。対象地内を環境タイプで区分し、単位区画ごとに、原則として基準年以前の30年間と初回申請年以前の30年間が重なる期間（環境タイプ設定期間）における環境タイプの変遷を確認する。その期間で最も高いランクの環境タイプを、その単位区画における基準年以前の環境タイプとしている。また今回のように基準年（1969年）が初回申請年（2021年）の30年以上前の場合は、基準年における環境タイプを採用する。

1-2における基準年（1969年）前後の空中写真判読の結果、環境タイプ1から3のタイプが確認された。基準年以前で最も高い環境タイプの面積割合は、樹林タイプ1（樹林）が2%、環境タイプ2（低木・草地・竹林）が1%、環境タイプ3（人工地）が97%であった。

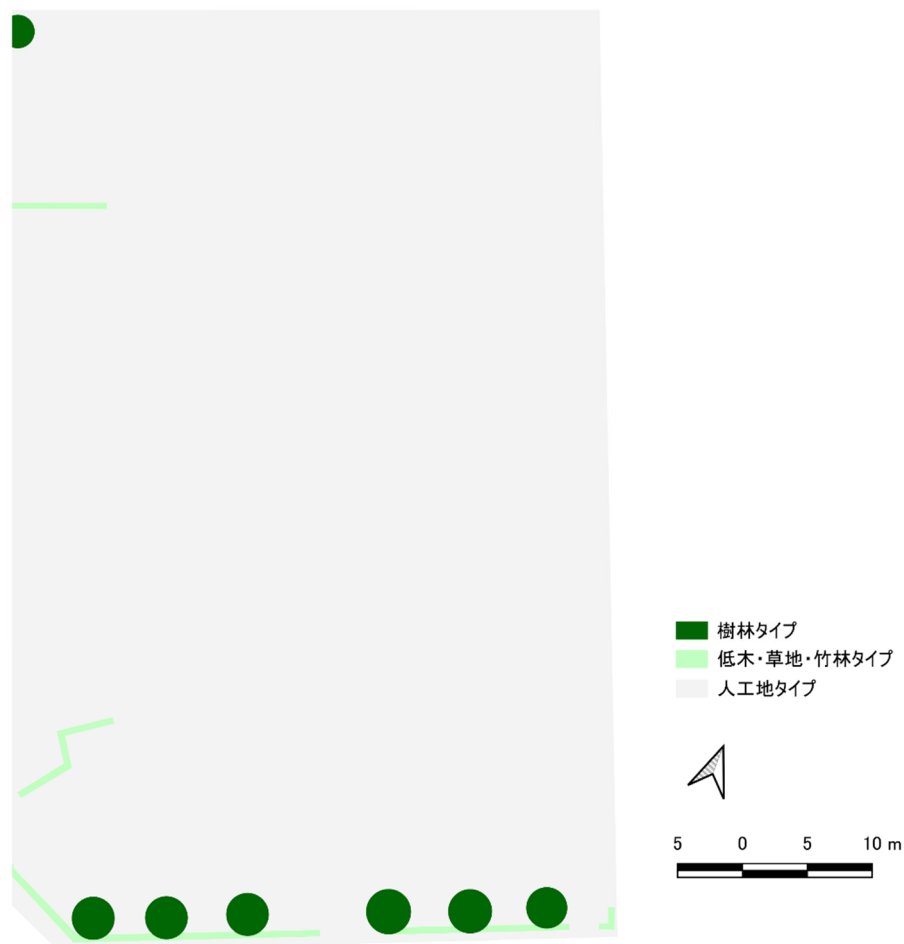


図. 基準年以前における環境タイプの分布

1-4.自然植生の遷移系列

対象地を含む当該地域の地形や気候条件から、自然植生に至る遷移系列について整理した。

さいたま市は関東平野の中央部に位置し、全域が台地及び低地からなり、大半が標高20m以下である。大宮区の地形は、西は荒川、東は中川の低地で囲まれた大宮台地（北足立台地）と呼ばれる沖積台地が大半を占めている。北西部の鴻巣から南東の浦和まで、南に向かって緩やかに傾斜している。またこの台地は鴨川、芝川や綾瀬川およびその支流などによって斜面が浸食され、谷底低地が放射状に広がっている。対象地は大宮区の中心部に位置し、大宮台地における平坦面の標高約10mに位置している。

関東地方のこうした条件下における自然植生は、シラカシ群集と判断される。シラカシ群集は、武蔵野台地の東部から多摩丘陵、狭山丘陵に代表される丘陵地を経て、海拔350mまでの山地下部に成立する、関東地方の代表的な常緑広葉樹林である（奥富ほか1987[†]）。高木層にシラカシが優占し、時にケヤキ、アカガシ、ウラジロガシを伴う。

シラカシ群集の代償植生としては、一般にクヌギーコナラ群集が知られている（藤原1981[‡]，宮脇(編)1986[§]）。クヌギーコナラ群集は、落葉広葉樹の二次林で、高木層にコナラ、クヌギ、クリ等が優占する。

クサイチゴータラノキ群集は、常緑広葉樹林域の先駆的二次林であり、タラノキ、クサギ、ネムノキなどの陽樹によって構成される低木～高木の樹林である。伐採跡地や林縁など、上記樹林と草原などを空間的につなぐ位置に成立することが多い植物群落である。

チガヤーススキ群落は、チガヤとススキを主な構成種に持つ暖温帯の二次草原である。この群集は、上記樹林タイプの成立する環境下で、年1回以上の刈り取りや火入れといった人為的攪乱により、樹林化が妨げられている場合に成立する。人為的攪乱の程度により、高さ50cm程度でチガヤ主体のものから、高さ2mに達し、ほぼススキが優占するものまで、様々な相観タイプを含んでいる。

[†] 奥富清・奥田重俊・辻誠司・星野義延（1987）東京都の植生．東京都植生調査報告書別刷，東京．

[‡] 藤原一絵（1981）日本の常緑広葉樹林の群落体系－Ⅰ．横浜国立大学環境科学研究センター紀要7，pp.67-133

[§] 宮脇昭（編）（1986）日本植生誌7 関東．至文堂，東京．

以上を下表に整理した。

表. 自然植生に至る遷移系列の推定

遷移段階	群集名	環境タイプ
極相林	シラカシ群集	樹林タイプ
二次林	クヌギーコナラ群集	
先駆的二次林	クサイチゴータラノキ群集	低木・草地・竹林タイプ
二次草原	アズマネザサーススキ群落	

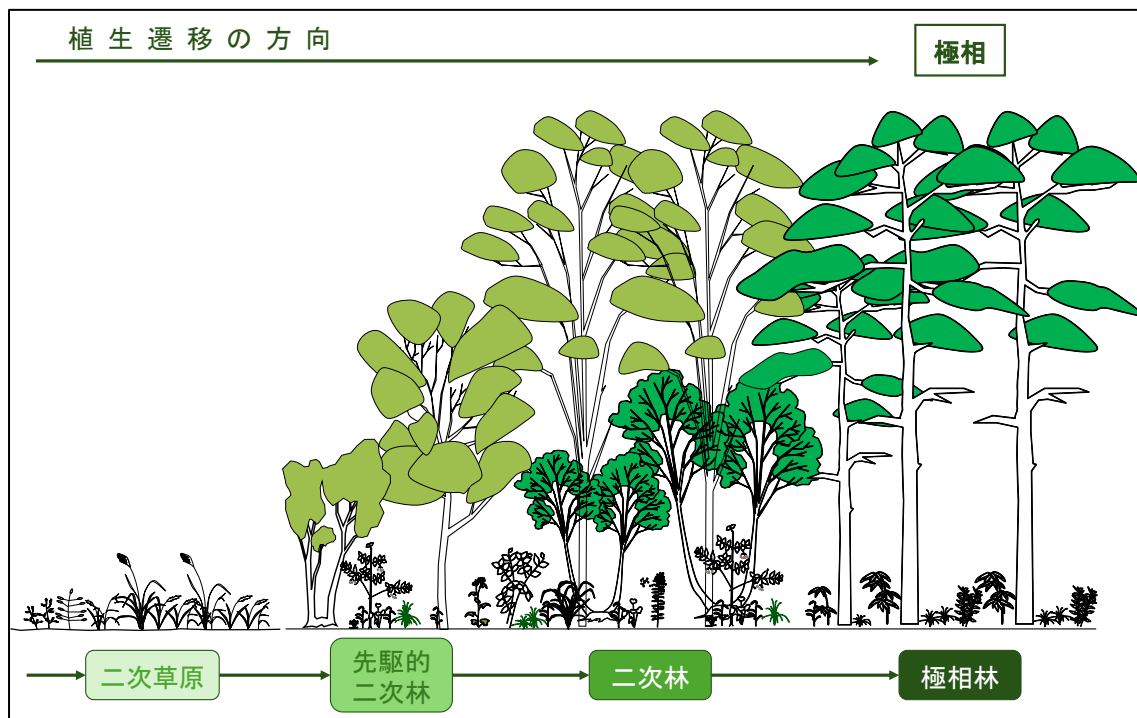


図. 目標植生の遷移段階イメージ

1-5.目標植生

環境タイプの分析より、本事業において目標とする植生群集と面積は、樹林タイプとしてシラカシ群集を 939 m²と設定した。残りは、建物や駐車場などの非緑地である。

目標植生の分布を下図に示した。

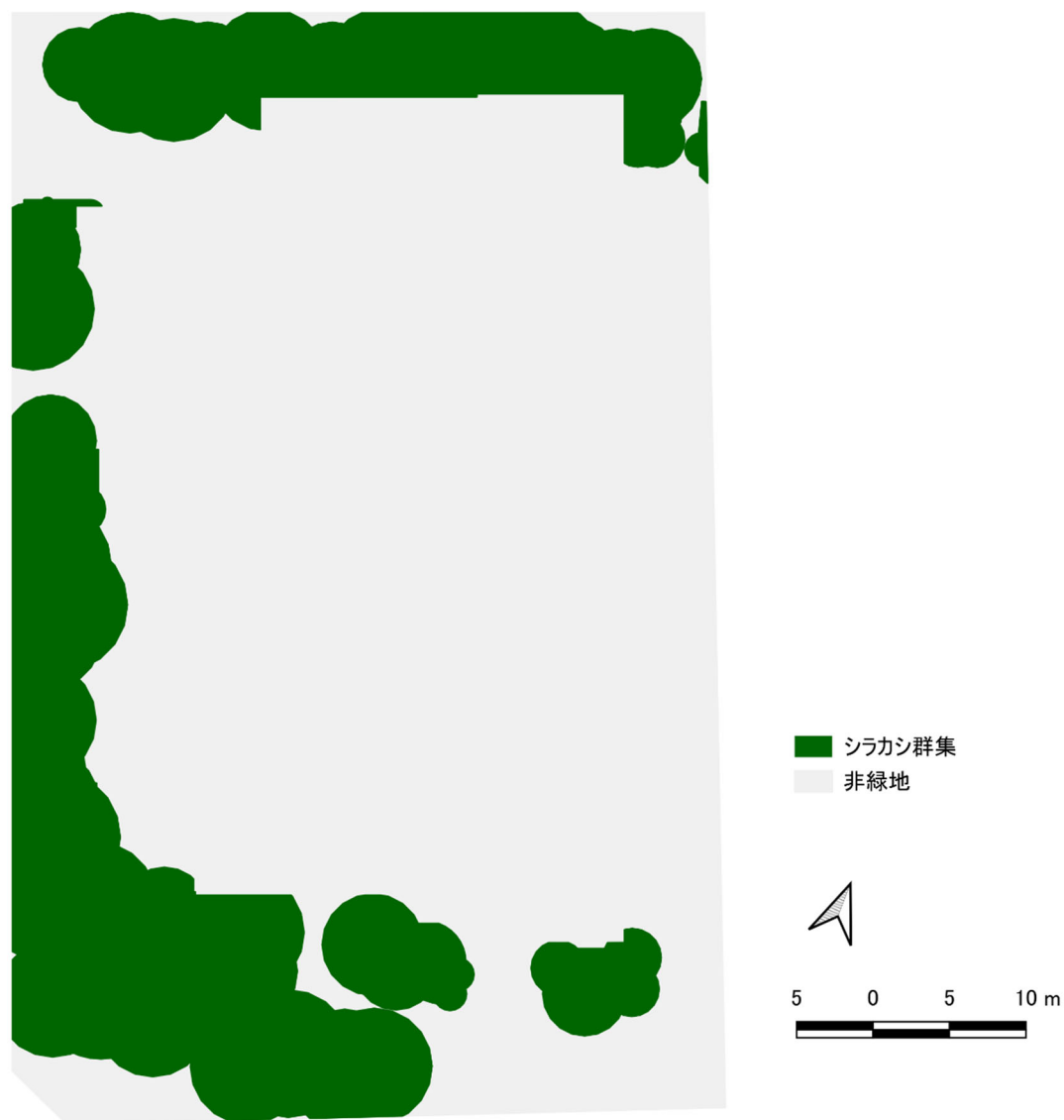


図. VEI 算出のための目標植生の分布

基準年と事業計画および設定された目標のそれぞれにおける環境タイプの面積割合を下図に示した。

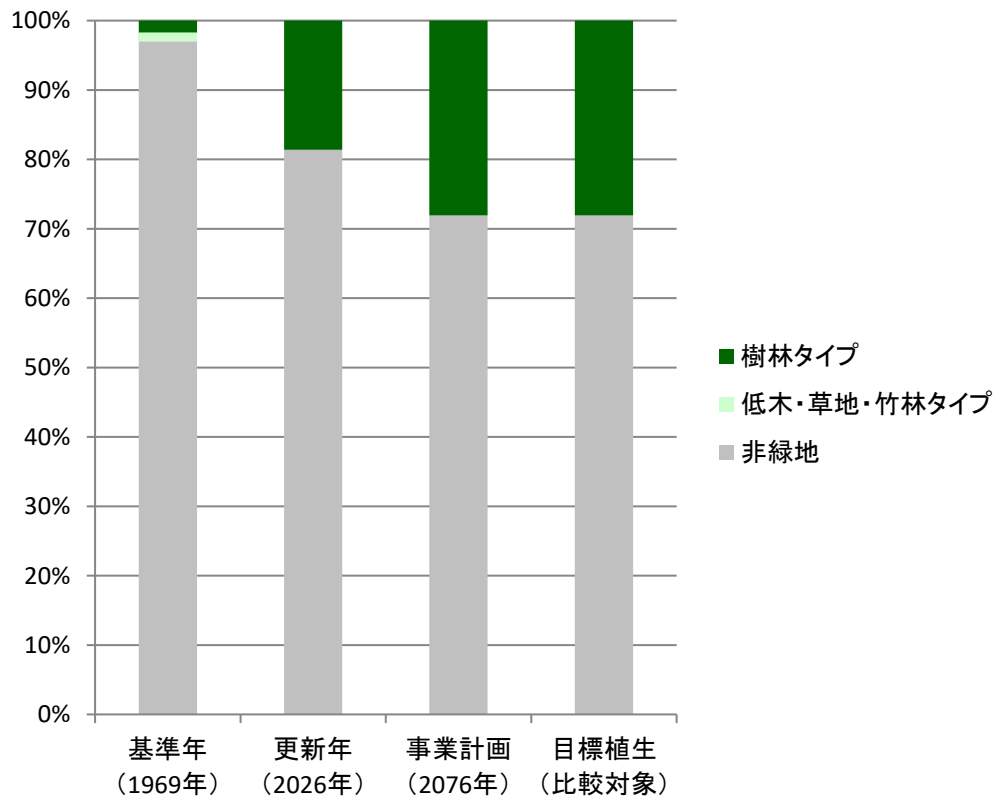


図. 環境タイプの面積割合

1-6.評価種の選定

(1) 選定プロセス

当該事業区域は、潜在的には照葉樹林が成立する区域であるが、基準年時には、建物と駐車場を中心とする人工的な環境の中に、わずかな植栽が見られる状況であった。大規模な樹林は当該事業地から離れた場所に位置し、樹林と当該事業地は、市街地や主要道路によって分断された状況にある。こうした条件を踏まえ、ここでは以下のように評価種の選定を行うこととした。

評価種は、樹林タイプについてシラカシ群集やクヌギーコナラ群集に生息する種を含む分類群の中から選定することとした。また、効率的に分析を進めるため、HSI モデルがすでに開発されている種、または十分な生態情報が存在する種を対象とした。その結果、鳥類、昆虫類（チョウ類）から選定することとした。

本事業の規模は約 3400 m²であり、対応する行動圏クラスは 1～2 となる。鳥類、昆虫類（チョウ類）それぞれの中から、この行動圏クラスに該当する動物種を抽出した。

(2) 選定結果

樹林の評価種としては、鳥類のシジュウカラ、昆虫類（チョウ類）のコミスジが選定された。

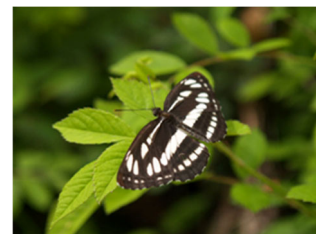
シジュウカラ

本種は、低山帯から低地、樹林の多い公園や人家など、幅広い環境に生息する。都市域や工場地帯などにおいても比較的生息の可能性が高く、市民がさえずりを耳にする機会が多いと考えられる。昆虫類や液果などを食べる。



コミスジ

平地から低山地の林縁、またそれらが近接する緑の多い市街地で見られる。緑被量との相関が強く、スギやヒノキの人工林よりも広葉樹林を好むなど、良質な樹林の指標となりうる。



2. 植栽植物等の確認（要件 3 の確認）

本事業において植栽された植物種について、審査実施時点における生態系被害防止外来種リスト掲載種との照合を行い、同リストの掲載種が含まれないことを確認した。

3.評価基準値の算出

3-1.方法

評価基準値は、基準年（1969 年）時点におけるハビタット得点の平均を 50 年間累積して求めた値を採用した。

1-2 における空中写真判読の結果、対象地における VEI（植生評価指数、植生の地域らしさ）および HSI（ハビタット評価指数、動物評価種のすみやすさ）を、以下のよう

に推定した。

(1) VEI

1-2 で判読した空中写真をもとに、植生を GIS データ化した。VEI の算出手順に従って、植生データを VEI に変換した（植生が存在しない区域の VEI は 0 点とした）。

(2) HSI

3-1 (1) で作成した植生データを、高さ（高木、亜高木、低木、地被）および葉の形状（広葉樹、針葉樹）の観点から整理した。それぞれの被度については、当協会が独自に取得したデータを参考にし、高木と亜高木については、HC1～2 層に該当する被覆部の被度を 80%、HC3～4 層に該当する被覆部の被度を 40%、低木については、HC3 層に該当する被覆部の被度を 80%、HC4 層に該当する被覆部の被度を 40%、地被については、HC4 層の被度を 80%とした。（ただし、芝草地は HC4 層の被度を 100%とした）

ハビタット変数をそれぞれの HSI モデルに入力し、HSI を求めた。得られた HSI を該当する環境タイプの面積比率で割った値を「該当する環境タイプにおける HSI (HSI_{hab})」とした。HSI_{hab} に 100 を乗じた値を「該当する環境タイプにおけるハビタット得点 (HS_{hab})」とし、HS_{hab} に該当する環境タイプの面積比率を乗じたものを「ハビタット得点 (HS)」とした。

3-2.結果

評価種および植生ごとに、基準年（1969 年）時点におけるハビタット得点を 50 年間延長したものを下図に示した。

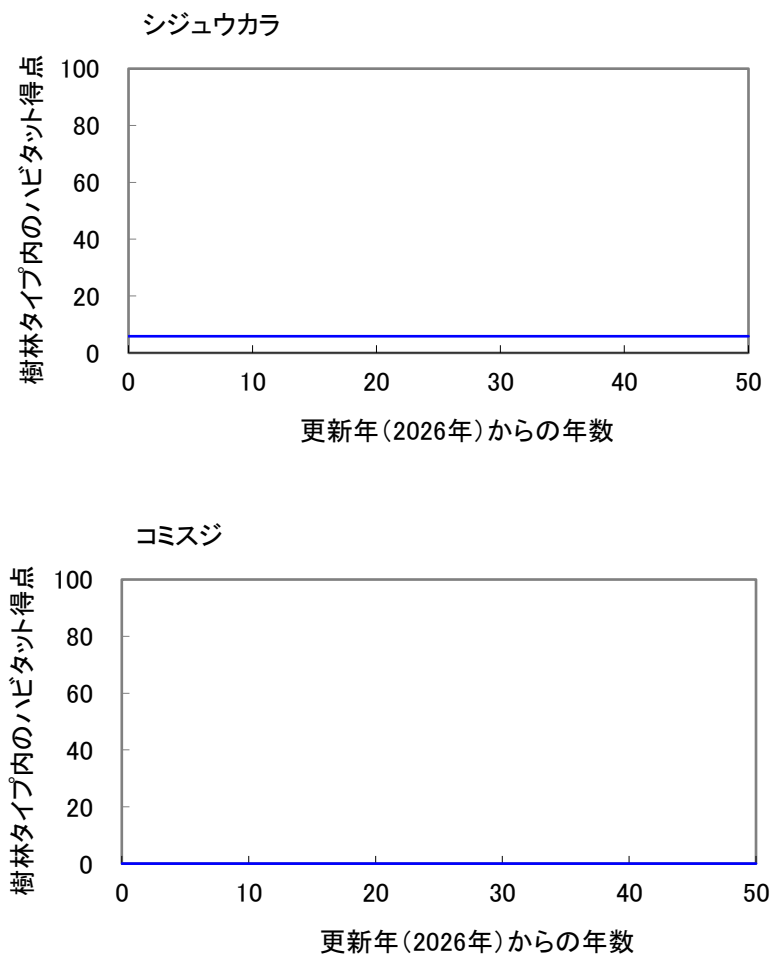


図. 評価種ごとの評価基準値

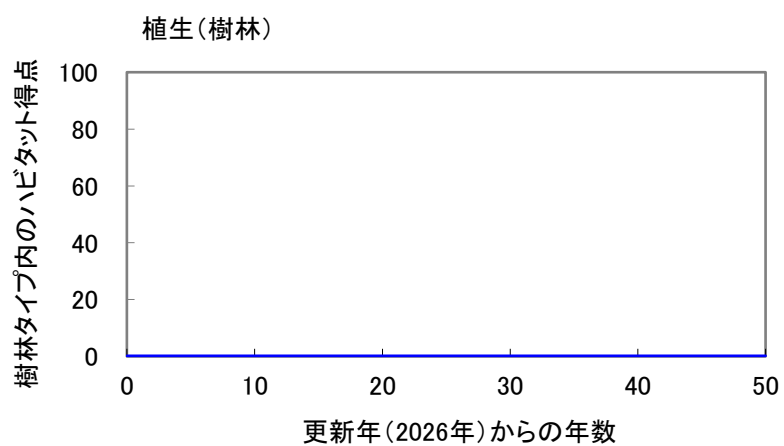


図. 植生の評価基準値

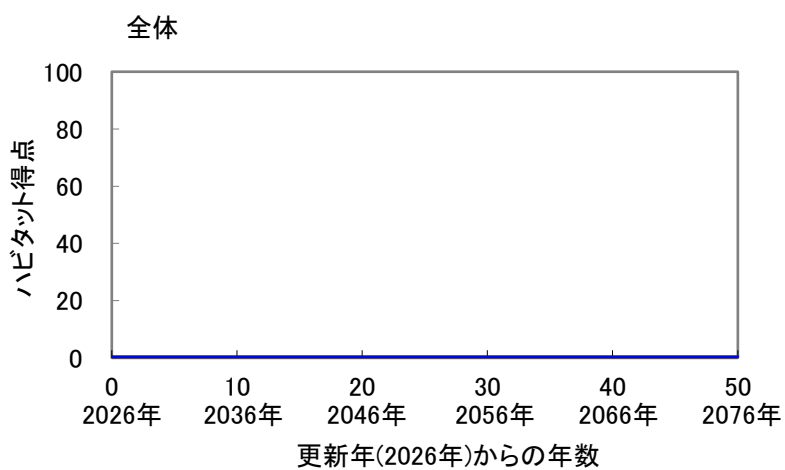


図. 全体での評価基準値

評価基準値を下表に示した。

表. 評価基準値

目標環境タイプ	面積比率	分類群	評価種	環境タイプ内の 年平均ハビタット得点	年平均 ハビタット得点*
樹林	0.276	動物	シジュウカラ	5.8	1.6
			コムスジ	0.0	0.0
			動物平均 F1	2.9	0.8
		植生 F2		0.2	0.1
		樹林の平均 $F = (F1+F2)/2$		1.6	0.4
非緑地	0.724			0.0	0.0
全体					0.4

* 環境タイプ内の年平均ハビタット得点に目標環境タイプの面積比率を乗じた値

4.事業によるハビタット得点の算出

4-1.方法

樹木の管理予定としては、一律に整枝・剪定を行うのではなく、特に地上部の高木については高さ制限を設けずに成長させていくものとしている。ただし、ペDESTリアンデッキにかかる植栽については樹高 6m 以内を想定している。

各植栽木の樹高および樹冠半径を、樹木の成長モデルから予測した。その結果、主要な植栽木は、2056 年（更新年の 30 年後）に管理上予定している最大樹高に至ると予測された。

以上より、2026 年（更新年）、2056 年（更新年の 30 年後）、2076 年（更新年の 50 年後）の 3 時点の VEI および HSI を算出した。

(1) VEI

B1～K 層に該当する植物種ごとの被度割合を算出し、VEI を求めた。評価区域全体の VEI は、相観植生ごとの VEI を面積で加重平均して求めた（植生が存在しない区域の VEI は 0 点とした）。

(2) HSI

各樹種の樹冠および地被類や低木類の植え込みを GIS 上に図化し、HC1～HC4 層の各階層における被覆割合を算出した。階層ごとの植物被度は、当協会が独自に取得したデータを参考に被覆割合の 80%とした。ただし、低木・地被類の HC3 層の被度については、植栽区画ごとに植物高 0.5m 以上の植栽被覆割合の 80%とし、芝草地は HC4 層の被度を 100%とした。

4-2.結果

得られた HSI と VEI に 100 を乗じて、各時期におけるハビタット得点を求めた。その推移を下図に示した。

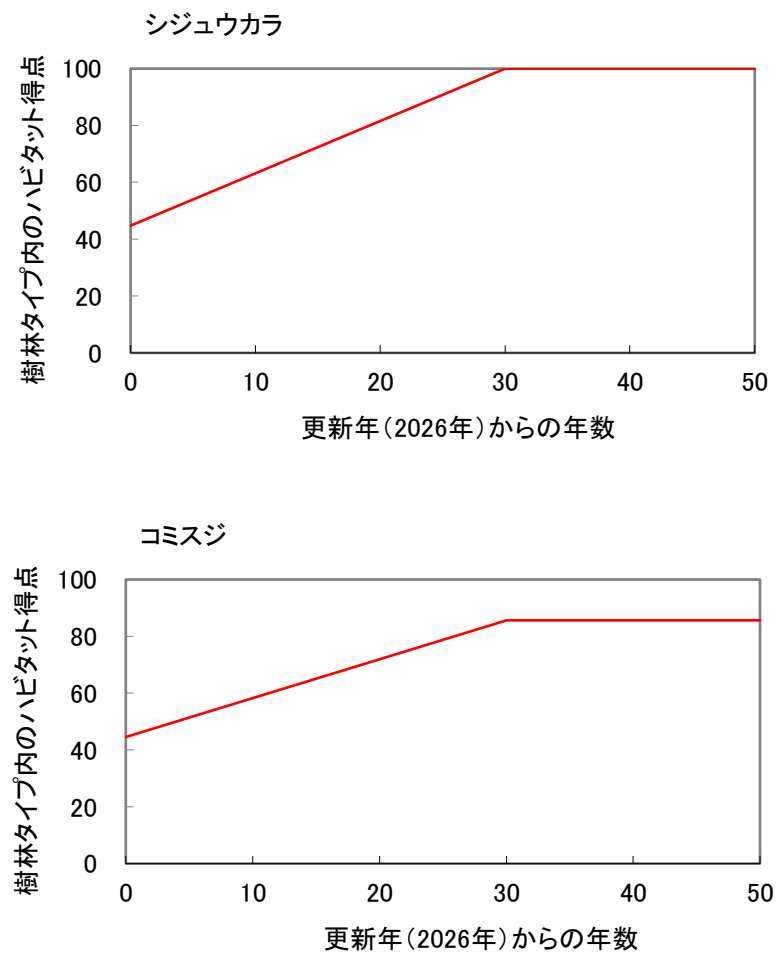


図. 事業により得られる評価種ごとのハビタット得点の推移

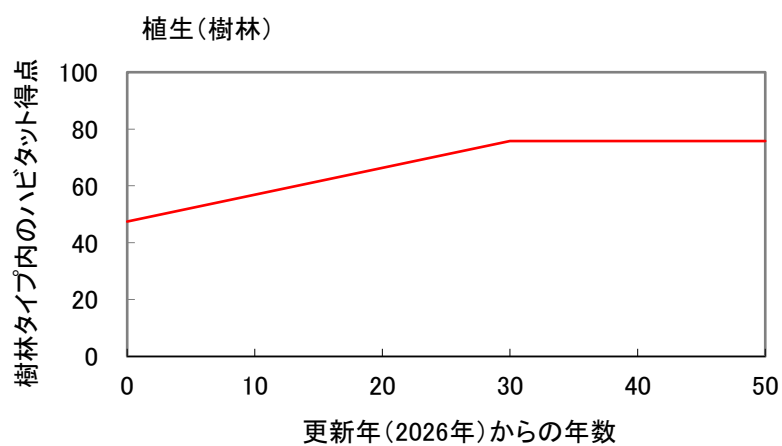


図. 事業により得られる植生ごとのハビタット得点の推移

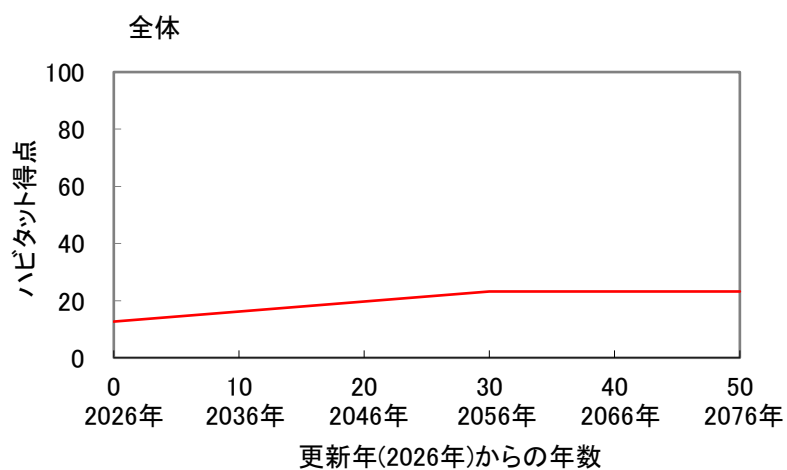


図. 事業により得られる全体でのハビタット得点の推移

本事業により得られると予想された年平均ハビタット得点を下表に示した。

表. 事業により得られる年平均ハビタット得点

目標環境タイプ	面積比率	分類群	評価種	環境タイプ内の 年平均ハビタット得点	年平均 ハビタット得点*
樹林	0.276	動物	シジュウカラ	83.4	23.0
			コムスジ	73.2	20.2
			動物平均 F1	78.3	21.6
		植生 F2		67.3	18.6
		樹林の平均 $F = (F1+F2)/2$		72.8	20.1
非緑地	0.724			0.0	0.0
全体					20.1

* 環境タイプ内の年平均ハビタット得点に目標環境タイプの面積比率を乗じた値

5.更新年の 50 年後におけるハビタット得点（要件 2 の確認）

更新年（2026 年）の 50 年後における HSI と VEI に 100 を乗じて、各評価種と植生のハビタット得点を求め、下表に整理した。

表. 50 年後のハビタット得点

目標環境タイプ	面積比率	分類群	評価種	環境タイプ内の ハビタット得点	ハビタット得点*
樹林	0.276	動物	シジュウカラ	100.0	27.6
			コミスジ	85.6	23.6
			動物平均 F1	92.8	25.6
		植生 F2		75.8	20.9
		樹林の平均 $F = (F1+F2)/2$		84.3	23.3
非緑地	0.724			0.0	0.0
全体					23.3

* 環境タイプ内のハビタット得点に目標環境タイプの面積比率を乗じた値

6.評価値（要件 4 の確認）

4 で求めた事業により得られる年平均ハビタット得点から、3 で求めた評価基準値を引くと、評価値は以下の通りとなった。

表. 評価結果

目標環境タイプ	面積比率	分類群	評価種	評価値*
樹林	0.276	動物	シジュウカラ	+21.4
			コミスジ	+20.2
			動物平均 F1	+20.8
		植生 F2		+18.5
		樹林の平均 $F = (F1+F2)/2$		+19.7
非緑地	0.724			0.0
全体				+19.7

* 事業により得られる年平均ハビタット得点から評価基準値を引いた値

* 表の値には小数点第2以下の数値が反映されています

評価種および植生ごとに、評価基準値（青色）とハビタット得点（赤線）の推移を下図に示した。

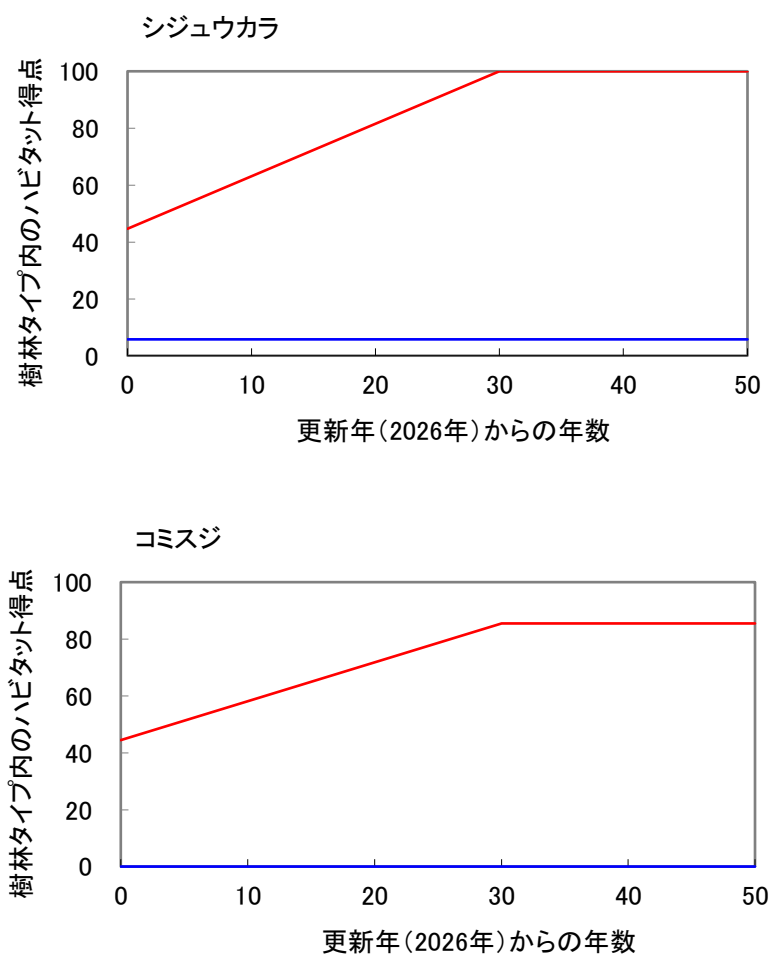


図. 評価種ごとの評価基準値とハビタット得点の推移

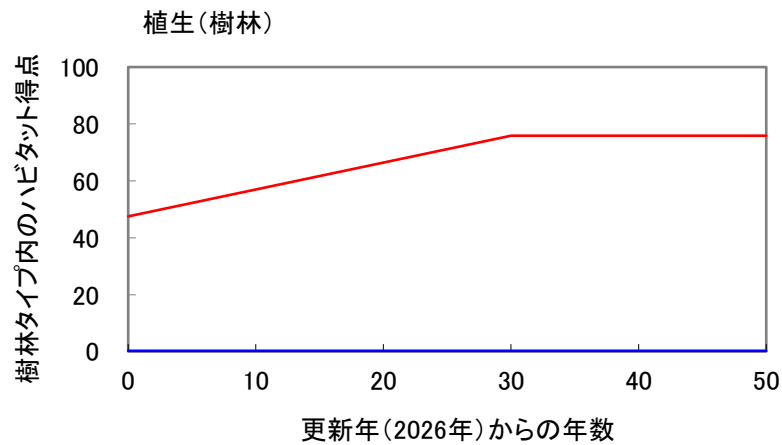


図. 植生の評価基準値とハビタット得点の推移

全体における評価基準値（青線）とハビタット得点（赤線）の推移を下図に示した。

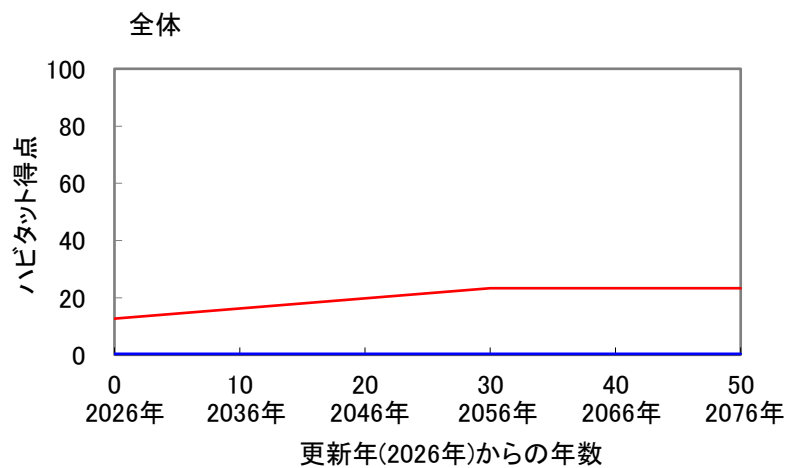


図. 全体での評価基準値とハビタット得点の推移

V. 審査結果

IV章の結果に従い、認証要件ごとの結果を以下に整理する。

要件 2（ハビタットの質要件）

ハビタット得点が将来までに 8 点以上となることが見込まれる。なお、条件によっては、他のサイトにおいて得られた評価値の一部またはすべてを、評価対象事業に移転すること（オフサイト代償）で、本要件を満たすことも可能である。

更新年（2026 年）の 50 年後におけるハビタット得点は 23.3 点と予測された。このため、本事業は要件 2 を満たすものと認める。

要件 3（外来種要件）

生態系被害防止外来種を使用しない。

本事業において植栽された植物種について、審査実施時点における生態系被害防止外来種リスト掲載種との照合を行い、同リストの掲載種が含まれないことを確認した。

このため、本事業は要件 3 を満たすものと認める。

要件 4（更新要件）

評価対象事業で得られる、更新年から 50 年間ににおける年平均ハビタット得点が、評価基準値以上となる。なお、ここで得られた年平均ハビタット得点を前回認証時の年平均ハビタット得点から引いた値は 10 以下である必要がある。

本事業において、更新年から 50 年間ににおける年平均ハビタット得点は、評価基準値を 19.7 点上回った。また、本事業により得られる年平均ハビタット得点 20.1 点を前回認証時の年平均ハビタット得点 21.1 点から引いた値は 10 以下となった。このため、本事業は要件 4 を満たすものと認める。

認証の可否と認証種別および評価ランク

以上より、本申請事業は認証要件をすべてクリアし、JHEP 認証事業に該当することを認める。保全タイプと評価ランクは以下の通りである。

認証可否 認証可

保全タイプ ハビタット代償保全および向上

評価ランク AA

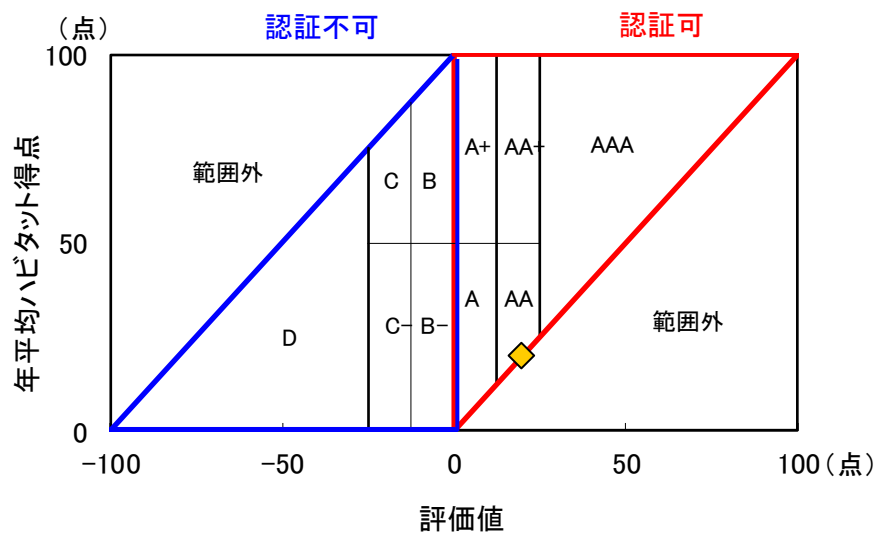


図. 本事業の評価ランク

※本事業は、横軸（評価値）が 19.7 点、縦軸（年平均ハビタット得点）が 20.1 点となる座標に位置する。このため、評価ランクは AA に相当する。

武蔵野銀行本店ビルに対する
JHEP 認証 [第 1 回更新]
審査レポート

2026 年 9 月発行

編集 公益財団法人日本生態系協会

発行 公益財団法人日本生態系協会

〒171-0021

東京都豊島区西池袋 2-30-20 音羽ビル

電話 03-5951-0244

URL www.ecosys.or.jp/

* 禁無断転載・複製

© (公財)日本生態系協会 2026